

ダンボール素材を応用した知育用具の提案及びワークショップ「造形体験ダンボールアート」の実践

造形短期大学部
造形芸術学科
講師
森下 慎也



研究シーズの紹介

様々なワークショップのニーズが増えている中、より有益な取り組み方が模索されています。

この研究の取り組みは、造形教育が社会の様々な場面で有益に活用することを目的として、梱包資材である段ボールの応用し、その素材を加工する企業とプログラムを実施する各種施設、企画準備する大学教育が機能的に連携する方法を模

索しました。結果として、各種事例を作ることができました。

主な活躍の場としては、夏休みや冬休みといった期間の、学習イベントとしての取り組みや、親子の触れ合いをテーマとしたイベントでの取り組みがあります。

今後の展開として、貧困・教育格差・学童保育などの児童の学びの場への活用へ展開していきます。

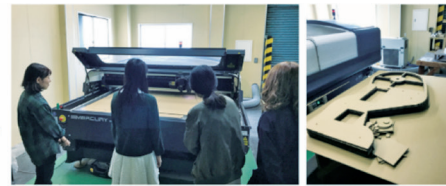


ワークショッププログラムの実践教育

- 産学連携で、より実践的な学習と経済的な貢献が可能です。
- リサイクル率の高い素材で、学びのサイクルの精度を上げます。



イベント企画を通して、プログラムの計画、工作キットのデザイン、参加者とのコミュニケーション能力の向上を目的とします。

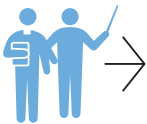


制作する工作キットやイベント用のオブジェは、工場で生産します。実際に生産する場所で、合理的で実践的な学びを体験します。



期待される活用シーン

- 学習イベントを企画したい
- 工作物のアイデアが欲しい
- スタッフが欲しい



産学連携することで効率よくイベント企画を進め、社会のニーズに応えることができる。



- 児童と触れ合う体験がしたい
- イベントの仕事をしたい
- 工作キットの開発がしたい
- 造形教育の経験を積みたい



教室の中だけでは得にくい、現場での実体験の学習をすることができ、就職につながる可能性を得ることができます。



その他の研究テーマ

産学連携による能動的な問題発見・解決型教育に関する研究
経済的な貧困と教育格差の改善に関する研究